

日蓮大聖人御書全集

あぶつぼうごへんじ

阿仏房御返事

新版
1734

あぶつぼうごへんじ

阿仏房御返事

こうあんがんねん

がつ ちち

さい

あぶつぼう

弘安元年('78)

6月3日

57歳

阿仏房

ごじよう むね いさいうけたまわ そちら お

御状の旨、委細 承り候い畢わんぬ。

だいかくせそんと のたま しょうろうびようし しょうじゅういめつ とううんぬん

大覚世尊説いて曰わく「生老病死」「生住異滅」等云々。

すで しょう う よわいろくじゆん およ ろう うたが のこ

既に生を受けて齡六旬に及ぶ。老また疑いなし。ただ残

やまい し にく しょうがつ

るところは病・死の二句なるのみ。しかるに、正月より

こんげつろくがつついたち いた れんれん やまいや し

今月六月一日に至り、連々としてこの病息むことなし。死

うたが きよう い しょうめつめつ お

ぬること疑いなきものか。経に云わく「生滅滅し已わつ

じゃくめつ らく うんぬん いま ぞくしん す のち こんじん

て、寂滅を樂となす」云々。今は毒身を棄てて、後に金身

を受^うくれば、あに^{なげ}歎くべけんや。

ろくがつみつか

六月三日

あぶつぼう

阿仏房

日蓮^{にちれん}

花押^{かおう}